

## 交換留学（派遣）帰国報告書

.....

留学先大学 : ボローニャ大学  
留学先での所属学部・研究科 : 経済学部  
留学先での在籍身分 : 学士  
留学期間 : 2017 年 2 月 ~ 2017 年 7 月  
神戸大学での所属学部・研究科 : 農学部  
学年（出発時） : 3 年  
本報告書記入日 : 2017 年 8 月 4 日

### 1. 留学先大学について

#### 1-1. 留学先大学の「学期」について

学年開始月日 : \_\_\_\_月\_\_\_\_日

学年終了月日 : \_\_\_\_月\_\_\_\_日

学期 :

① \_\_\_\_月\_\_\_\_日～\_\_\_\_月\_\_\_\_日

② \_\_\_\_月\_\_\_\_日～\_\_\_\_月\_\_\_\_日

③ 2 月 20 日～3 月 27 日

④ 4 月 19 日～5 月 24 日

#### 1-2. 留学先大学の特長、人気のある分野等

世界最古の総合大学と言われるボローニャ大学では、歴史ある美しいキャンパスで勉学に励むことができる。また、イタリア国内第二位の規模で、多様な学生に出会うことができる。大学の前身となつた法学部は特に有名である。また、経済学部もレベルが高い。

#### 1-3. 留学先大学のサポートについて記入してください。

語学面でのサポート :

半年間無料のイタリア語コースがあり申し込んでいたが、入国後に定員オーバーで参加不可と告げられ受講できなかった。頼めば有料のプライベートレッスンを紹介してくれる。

勉学面でのサポート :

なし

精神面でのサポート :

なし

住居・生活面でのサポート：

サポートは無かった。

課外活動のサポート：

なし

1-4. 神戸大学の所属学部・研究科にて「単位認定」を申請する予定ですか。

はい

いいえ

## 2. 住居

2-1. 住居についてアドバイスを含め自由に記入してください。(気をつけること等)

まず、ビザ申請に住居証明が必要なため、早期から住居探しを始める事が大切である。私は Housing Anywhereというサイトと、Facebookのボローニャ住居探しページで探していた。どちらもイタリア語で書いた方が圧倒的にレスポンス率が高くなる。家賃相場は1部屋400~450ユーロ。

## 3. 生活について

3-1. 保険について

どのような種類の保険に加入したかを教えてください。

学研災付海外留学保険（「付帯海学」）（神戸大学指定の保険）

また、上記以外で加入した保険があれば、ご記入ください。（留学先の国・大学が義務付けている保険等）

なし

3-2. PC（パソコン）について

PCの保有の状況：  日本から持参した  現地で購入した  保有しなかった

住居内のインターネットへの接続の可否： 接続できた  接続できなかった

住居内でインターネットに接続していた場合、プロバイダー、料金等について記入してください。

同居人が管理していたため不明。

大学でのPCの使用の可否： 使用できた  使用できなかった

大学でPCを使用していた場合、施設の場所や日本語環境等について記入してください。

大学図書館で使用可能。日本語環境はPCの言語設定より設定可能。私は日本語キーボードを入れて使っていた。

3-3. 医療について

留学中に病院に通いましたか。医療費等について記入してください。

いいえ

健康管理あるいは衛生面について特に注意すべきこと。

特に気を付ける点は無いが、スーパーの野菜等はたまに悪くなっているので注意が必要。

3-4. 銀行口座等について

留学先でお金を引き出せるように、どのように準備・手続きしましたか。  
(現地で口座開設、キャッシングサービス利用等)

日本で新生銀行口座を開設し、イタリアではPoste ItalianeのATMから引き出していた。数回、クレジットカードのキャッシングサービスを利用した。

3-5. 異文化体験について

留学先の文化・社会（習慣の違い等）について記入してください。

イタリア人はやはり社交的で、良くしゃべる。困っていると、向こうから話しかけてきて助けてくれることが多いが、まれにサービス料を請求されるので注意が必要。また、バスでも電車でも構わず大声でしゃべるため、慣れるまでは不快に感じるかもしれない。細かいことを気にしない人が多いのも特徴の一つで、良く言えば些細なことは許してもらえる。自由奔放でルールが少ないのもこの性質からきているのかもしれない。

大学外の現地の人々と、どの程度コンタクトをもちましたか。

大学の友人を通して知り合った現地の人とよく会っていた。また、店の店員さんがとても友好的なため、常連になると仲良くしてくれる。

課外活動（ボランティア、インターンシップ、アルバイト等）をしましたか。

しなかった。アルバイトに関しては、しないのが普通である。

留学先の「町」についてコメントがあれば、記入してください。（安全性、外国人への態度等）

道を歩いているとニーハオと声をかけられるが、気にしなければ害はない。現地の人は頻繁に人種差別ジョークを言うが、本気にしなければ問題ない。旧城壁の東部（病院付近）と駅の北側の地域は危険らしい。

3-6. 留学期間中に就職活動をしましたか。就職活動をした場合、教えてください。

しなかった

4. 経費について

4-1. 奨学金を受給していた場合、奨学金についてご記入ください。

(財団等名) JASSO \_\_\_\_\_, 80,000 円／月  
その他（渡航費等の支給）\_\_\_\_\_円

5. アドバイス及び感想

5-1. 現地で参考となった留学先国の情報（出版物、ホームページ）を記入してください。

現地の人に教えてもらう情報が一番役に立った。

5-2. 日本から持参すると良いと思われるものがあれば、記入してください。

洗顔石鹼は現地では見つけにくいので持参した方が良い。また、販売されている文房具は日本製のものが多いが、2~3倍の値段なので買っていった方が得である。

5-3. 留学することによって得られたことについて記入してください。（語学力の向上、キャリアパスの明確化、異文化理解等）

※ 語学力については、差し支えの無い範囲で、留学前と帰国後の客観的な指標を教えてください。

留学前：( ) 点 → 帰国後：( ) 点

ボローニャで英語力を伸ばすのは難しかった。英語開講の講義を履修すること、北欧からの留学生と話すことが最も効率的であった。イタリア語力は飛躍的に向上した。イタリア人は英語が苦手な人が多いため、イタリア語を話すにはうってつけの環境である。プライベートレッスンに通うより、現地の人と遊んでいる方が上達が圧倒的に早かった。現地の人と時間を過ごすとその地の文化も知れて一石二鳥である。

5-4. 振り返ってみて、何が最大のトラブルでしたか。

特に大きなトラブルには巻き込まれなかつたが、駅で道案内をしてくれた男性4人組に10ユーロではあったが巻き上げられた。その他、ひったくりに遭いかけたり、麻薬売人にしつこく迫られたりと、危険な場面は幾度かあつた。

5-5. 留学前、留学期間を通じて、神戸大学のあなたへのサポートは適切でしたか。神戸大学への要望があれば記入してください。

留学前の手厚いサポートや、留学中、留学後の提出物のリマインドなど親切でとても助かつた。適切であった。

5-6. 本留学プログラムを後輩に薦めますか。薦める場合・薦めない場合ともに、理由を記入してください。

将来海外での生活を考えている方には強く勧めたい。半年現地に滞在するだけでも、語学力の向上などだけではなく、その地が（または海外が）自分に合っているかどうかを確認できるため、将来設計をする上で役立つと思う。また、そうでない人でも、自分の価値観を見つめなおし、視野を広げるいい機会になるので、ぜひプログラムに参加してほしい。また、複数の学問分野に興味があるのなら、全学部をまたいで講義を履修できるためおすすめである。

5-7. 留学全体を振り返って、以下の質問に答えてください。

（5段階評価、5が最も高い評価、1が最も低い評価）

- ・留学先大学の授業の「質」（内容、レベル等）に満足しましたか： 4
- ・留学先大学の学生サービスに満足しましたか： 1
- ・留学先の住み心地（安全性等）に満足しましたか： 3
- ・住居の「質」（広さ、料金等）に満足しましたか： 2
- ・全体として留学に係る費用は安かつたと思い、満足しましたか： 2
- ・神戸大学の留学に係るサポートに満足しましたか： 4
- ・留学全体の総合的な評価： 5

留学先大学：ボローニャ大学

留学先での所属学部・研究科：経済学部

留学先での在籍身分：学士

留学期間：2017年2月～2017年7月

神戸大学での所属学部・研究科：農学部

学年（出発時）：3年

本報告書記入日：2017年8月4日

**授業について**

留学中に履修した授業について記入してください。

No.	コース名 (現地語・和訳)	教授名	時間数 ／週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習、復習、テスト等についてアドバイスも含 めて教えてください。
1	international trade	Gianmarco Ireo Paolo Ottaviano/Alireza Jay Naghavi	6	8	約40人	予め講義スライドがWeb上にアップされるため、予習復習は可能です。また、参考文献もネットから無料でダウンロードできます。テストは期末テスト1回または小テスト2回。範囲が広いため、小テストを受けることを勧めます。
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						

授業（カリキュラム等）のクラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

クラスサイズは40人前後と大きくないため、比較的発言しやすい。現地の学生は頻繁に発言するので、自分も恥ずかしがらずに発言できる。最終成績評価は相対評価であったと記憶している。そのためテストで高得点をとっても好成績が付かない場合もあるので要注意。

**費用について**

留学期間を通して必要だった費用を記入してください。（概算で結構ですので、円価で記入してください。）

・航空運賃：110,000

・住居費：(月額) 30,000 × (留学月数) 5ヶ月 = 150,000

・食費：(月額) 40,000 × (留学月数) 5ヶ月 = 200,000

・保険料：60,000

・その他：100,000(交通費、携帯料金など生活費)

合計：620,000 (留学期間全体の費用)

**その他　自由に記入してください。(800字～)**

全学協定の派遣留学生としての半年間はあつという間に終わってしまったが、非常に有意義で満足感のある5ヶ月であった。海外での生活経験、大学での勉強、語学、異文化体験等、様々な実りを得た。

留学開始直後は苦労が多かった。まず、言語も常識も通じない環境に身を置くことが初めてで、どうやって暮らせばいいかわからなかった。初めはその状況に落胆していたが、手探りで会話や行動をとっていくうちに、失敗を恐れる気持ちが薄れていった。陽気なイタリア人たちは、間違いや失敗を冗談にして笑い飛ばしてくれることも多かった。こうして徐々に大胆な行動ができるようになり、それにつれて人間関係の幅も広がっていった。友人が増えると生活の質が一気に高まった。現地の友人は私を色々な場所へ連れて行ってくれた。家に遊びに行ったりには、家族のように慕ってくれ、本当に現地の人になったかのようだった。テレビを見ながら昼2時に昼食を食べ、食後にエスプレッソを飲みながら雑談した。また、クラスにいた留学生とは、授業内でのグループワークに共に取り組んだり、休みの日に一緒に勉強したりした。そうして人と関わっていくうちに、徐々に言語力が磨かれ、異文化を理解していったのだと思う。私はこれこそが留学の醍醐味である、と感じた。留学中にしか本当にできることは、留学先にいる人や物、文化などに触れることである。もちろん勉学も疎かにしてはならないが、それは日本でもできないことはないだろう。私は必要と感じる最低限の時間以外は1人でいる時間をつぶしていた。現地の人なり、他国からの留学生なり、とりあえず誰かと話をするようにしていた。たまには日本人留学生とも留学中に感じたことを共有し合ったりした。私が留学中に得たと感じるものはおおむねそういうものである。

留学期間が短く、常に留学終了の焦りを感じたことが功を奏したこともあり、後悔も少なく、非常に有意義なイタリア生活を送ることができた。その中で出会った人たちへの感謝も気持ちちは忘れようにも忘れない。今後も感謝と留学経験を大切にし、将来に活かしていくたい。